

## 「頑張る」ということ

鎌倉 由香

昭和大学病院 診療録管理室 主任

東京会場専門課程(分類法) 講師

診療情報管理士指導者

いつも頭の中で、「一生懸命頑張らないと」と叫んでいる声がしています。

毎日が単純に過ぎていくのではなく、何かしらちょっとした事件（私の中では）が起きて、ほんとうに時間が経つのを忘れて仕事をしているように思います。

当院の診療録管理室は、平成9年4月に開設され今年で11年目に入ります。

これまでに診療録のいろいろな整備を行い、診療録管理室規定や多くの業務についての運用マニュアルなど作成してきました。

ですので、院内の運用は、それに則って実施されれば間違いなくスムーズに行われるのではないかと考えてしまいます。しかし、皆さんも日常の業務で実感しているらっしゃるとは思いますが、そんなに簡単にはいかないというのが現状なのではないでしょうか？

そしてそこには、毎日一生懸命頑張らないと業務が上手く実施できないという原則があるように思います。

「あることを成し遂げようとし、困難に耐えて努力をすること」が頑張ることだそう。困難に耐えて・・・というところは、やはり苦手な業務であっても打破しなければならぬ大きな壁なんですね。また、少し違う方向に行ってしまうと無理をすることとなり、大きなストレスとなりかねないという意味も含んでいるのだと思います。

現在は業務編成され実施してはおりませんが、数年前には当室の業務のひとつに毎月第3土曜日に「時系列カルテ」の作成と入庫業務がありました。これは、オーダーリングPCに入っている検査データを退院日から1年経過したものを出力し入院診療録に合綴する業務です。（合綴するまでは、簡易版出力データが入っています。）毎月1回スタッフ全員で1日かけて実施しました。診療録管理業務の中でもこの業務はとても古典的で単純な業務なのですが、とても量が多いため忍耐が必要でありました。

当室のスタッフは皆とてもモチベーションが高く、あらゆる業務も意欲的に望んでいくのですが、この時系列の合綴に際しては、最後息切れしてしまうことがありました。そこで、その業務が終了する最後の10～15分くらい前になると頑張れるようにZARDの「負けないで」を流し、耐えられるようにしていたことがありました。この歌が聞こえるとなぜか今も頑張ってしまうという反応は、パブロフの犬と同様なのではないでしょうか？

このような頑張りと比較するわけではありませんが、受講生の皆さんは日々の業務と勉強に一生懸命励んでいることと思います。

「あることを成し遂げようとし、困難に耐えて努力をすれば」こそ、すなわち

「頑張れば」こそ、自信となりスキルアップへとつながることとなります。

2年間の充実した通信教育をしっかりと身に付け、「頑張る」ことで、今後はさらに大きく飛躍することができるかと確信しています。